

運営費交付金に反映する成果指標 令和4年度実績一覧(文芸大)

文芸大

分野	分野別	反映する交付金費目	費目別	成果指標	県設定	目標難度	目標 (県設定を除き 文芸大第3期中期計画)	R4実績 (※…R5当初)	目標数値 達成状況	R4評価 見込	目標に関する取組			
教育				1 英語の学修成果			800点以上を取得する学生数26人以上	36人	○	A 【No.27】	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化・多言語教育研究センターにおいて学生の語学力向上、留学促進のため「外部語学検定試験検定料補助」を行い、学生の外部検定試験受験の促進を行った。 ・TOEIC対策講座・HSK4級特別講座を実施し、検定試験のための特別支援を行った。 ・TOEICは、毎年度、新入生を対象に行う4月の試験のほか、年4回の学内試験を実施している。令和4年度はすべてオンラインで実施した。年末の試験では、英語コミュニケーションⅡA・ⅡB履修者全員が受験するものとし、未受験の場合は1回の欠席扱いとしている。 ・HSK3級、4級については受験者数42名中、35名が合格。合格率は昨年度とほぼ変わりはない。 			
							700点以上を取得する学生数64人以上	99人	○					
							600点以上を取得する学生数167人以上	254人	○					
							2 中国語の学修成果			HSK3級以上を取得する学生数42人以上	37人	×		
							3 大学主催の就職支援事業の参加率			45%以上	29.6%	×	B 【No.41】	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員を対象としたガイダンスを年13回実施した。 ・前期のみに絞ると参加率は57.0%である。 ・令和5年度はガイダンスの内容を精査するとともに、なるべく前期中に実施する。
							4 大学院における入学定員の充足状況		困難	100%	※100%	○	A 【No.4】	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の中国における高等教育制度及び学歴認証の多様化を受け、本学大学院出願希望者の出願資格確認審査の際、出身教育機関に関する情報を在上海日本総領事館に照会した。 ・大学院説明会を学内向け及びオンラインにて実施した。
							5 志願倍率			過去3年平均以上	4.9倍 (過去3年平均5.9倍)	×	B 【No.3】	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりとなる対面による本学でのオープンキャンパスを開催し、YoutubeによるLive配信も行った。 ・各学科9名の教員による模擬授業、及び5名の本学学生による学生の目線に立った学科紹介動画を本学公式Webサイトにて公開した。 ・入試室参事・参与による高校訪問の際、英語重点型公募制入試について丁寧かつ詳細な説明を行った。 ・オープンキャンパス以外の時期でも、個別の来校者に数多く対応した。11月に開催された大学祭(碧風祭)での相談会を案内し、2日間で100組近い入試相談を実施した。
		教育(学生)研究費	6 FD研修参加率			75%以上	78%	○	A 【No.24】	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に対応できる授業運営をテーマに、FD研修会を実施した。 				
			7 就職率		困難	100% (ただし、第2期平均値以上であれば「概ね達成」とする)	96.3% (第2期平均: 96.2%)	○	B 【No.41】	<ul style="list-style-type: none"> ・企業説明会、業界研究セミナーにおいて学生の志望度が高い地域企業を中心に招聘した。 ・ガイダンス、セミナーの実施、個別面談やゼミ単位での指導等を行った。 ・面接練習、履歴書添削、就職相談等の個別支援をオンライン、対面いずれも実施できる体制を整え、コロナ禍に左右されない継続的な実施を行った。 				
グローバル				8 留学生等受入人数		困難	40人以上(ただし、第2期平均値以上であれば「概ね達成」とする)	31人 (第2期平均: 36人)	—	A 【No.66】	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生向けWebページの充実を図る等したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、未達成となった。 			
				9 受入留学生ガイダンス			年6回以上	6回	○	A 【No.35】	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な留学生ガイダンスの実施とLMS(学習管理システム)を活用した情報発信により留学生への支援を充実させた。 ・留学生ガイダンスでは、静岡県国際交流協会と協同し、「就職支援講座」を開催するなど、留学生の実態に即した支援を実施した。 ・学生同士のサポートの他、留学生や外国ルーツを持つ学生から要望があがっていた日本語アカデミック・ライティング支援についても試験的に導入した。 ・交換留学生受入時に、正規留学生に留学生SAとして生活サポートや通訳を依頼し、実施した。 			
				10 海外の教育研究機関等との共同事業の実施		困難	第3期累計20件	4件	○	A 【No.67】	<ul style="list-style-type: none"> ・協定校や海外教育・研究機関との協働学習、インターンシップ、オンラインを効果的に使用したプログラムを4件行った。(アイルランガ大学とのCOILほか) 			
				11 海外派遣学生数			長期留学(1学期以上)学生数22人	37人	○	A 【No.66】	<ul style="list-style-type: none"> ・語学研修助成や積極的な周知を行うなど、学生の海外派遣を促進した。 ＜長期留学＞夏・秋派遣: 28人、春派遣: 9人 ＜短期留学＞ ・夏期語学研修: 40人(オンライン) ・ブラジル派遣事業: 4人(派遣) ・春期語学研修: 9人(派遣)、6人(オンライン) 			
		短期留学(1学期未満、オンライン語学研修含む)学生数50人	59人	○										

分野	分野別	反映する交付金費目	費目別	成果指標	県設定	目標難度	目標 (県設定を除き 文芸大第3期中期計画)	R4実績 (※…R5当初)	目標数値 達成状況	R4評価 見込	目標に関する取組
研究	1		1	外部資金(科研費等)の獲得件数			過去3年平均以上	52件 (過去3年平均53件)	×	A 【No.48】	・科研費情報や研究助成財団等の公募情報を収集し、定期的にWebサイトに掲載した。また、関連する教員へ個別に情報提供を行うとともに、外部資金の獲得に向けた支援を行った。 ・科学研究費補助金の申請者に対しては、研究計画調書作成に関する個別面談の実施、研究計画調書の作成ポイント等の解説を視聴できる動画の配信、採択された研究計画調書閲覧等、科学研究費補助金獲得に向けた支援を行った。
	2		2	外部資金(科研費等)の獲得金額		困難	過去3年平均以上	36,346千円 (過去3年平均31,051千円)	○		
	3		3	科研費の申請率			第3期最終年度30%以上 (毎年度1ポイント増・R4目標は25%以上)	28.4%	○		
	4		4	論文数、研究作品数 (機関リポジトリ登録数)			対前年増	52件 (R3:70件)	×		
地域貢献	1	教育研究費(教員)	5	受託事業、受託研究、共同研究の受入件数			過去3年平均以上	20件 (過去3年平均15件)	○	A 【No.46】	研究者総覧(冊子)や大学Webサイト等を通して研究者情報を発信した。行政機関や民間企業から共同研究や受託事業の相談を受けて研究者(教員)とのマッチングを行い、令和4年度は4件の共同研究、1件の受託研究、15件の受託事業を実施した。
	2		6	社会人学生数			学部生、大学院生、科目等履修生:過去3年平均以上	2人 (過去3年平均3人)	×	A 【No.43】	後期に科目等履修生の受入れを再開した。(コロナ禍で前期は中止していた。)
	3		7	市民対象イベントの参加者数			過去3年平均以上	3,918人 (過去3年平均3,892人)	○	A 【No.54】	新型コロナウイルスの感染状況によって、来場者数の制限や出入口での消毒検温等対策を取りつつ、予定されていたすべてのイベント(公開講座、特別公開講座、イベント・シンポジウムなど)を対面で実施し、参加者総数が過去3年間平均を上回る結果となった。
	4		8	地域連携演習等取組者数(登録者数)			第2期平均以上	280人 (第2期平均195人)	○	A 【No.55】	・コロナ禍により縮小された「地域連携演習」のプログラムの増強と履修者の回復を図った。 (プログラム数 R3:23件→R4:28件) ・「地域連携演習」の事前指導授業で「自主課題演習」を推奨する指導を行った。また個別に自主課題を行っているグループに「自主課題演習」の履修方法を伝え、指導を行った。 ・コロナで学外での活動が制限されていた反動で、全学科目であるが、2年生以上の希望者が増えた。
	5		9	県内就職率			過去3年平均以上	35.9% (過去3年平均38.4%)	×	B 【No.41】	学生と地元企業のマッチングの場を設け、企業の魅力理解を促した。 ・業界研究会(浜松商工会議所と連携して実施) 6/8 4社 108人参加 ・浜松地域企業セミナー(近隣6大学合同開催) 2/15、16 80社 17人参加 ・学内個別企業セミナー 2/13~3/3 39社(県内企業38社) 延べ202人参加 なお、県内出身者の県内就職率は66.3%である。
法人経営その他	1	管理運営費	1	育児休業等取得			職員(出産した本人を除く)の育児休業等取得率60%	100%	○	S 【No.73】	育児のための入試業務免除等、育児関係の諸制度の周知に努め、利用を促進した結果、目標を上回った。
	2		2	育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者			第3期累計30人以上 (年度平均5人)	12人	○		
	3		3	時間外勤務時間数(総時間数)			対前年減	13,067時間 (R3:11,806時間)	○	A 【No.74】	・年末調整業務の外部委託や、業務用ポータルサイトの整備等により業務を効率化した。 ・時間外勤務の多い職員及び当該室長に対して事務局長ヒアリングを行い、室内の業務分担の見直し等を行った。 ・R2~R3年度はコロナ禍が始まり拡大していく中で、従来の業務運営とは状況が大きく異なっていた(感染防止対策業務、イベントの中止やオンライン化等)。R4年度についてはコロナ禍が落ち着いてきた状況であったため、時間外勤務実績はコロナ禍前(平常時)の数値と比較することが適切と考えた。結果、下回っていたので概ね達成と考える。 ※H29~H31年度(コロナ禍前の3か年)の時間外勤務総時間平均:13,122時間
	4		4	管理的経費の効率化状況			一般管理費(義務的経費除く) 第2期の平均額以下	224,418千円 (第2期平均:203,524千円)	×	A 【No.80】	・水道光熱費が大幅に増加したため、一般管理費全体として、第2期の平均額を上回った。 ・役員及び教職員を構成メンバーとする「財政研究会」を2回開催し、本学の財政状況や予算の適正な執行について協議した。 ・教職員対象の業務実績等に関する説明会において、決算の概要等の財務状況を説明し、経費削減の意識向上をはかった。
	5		5	5	職員の有給休暇取得日数			10日以上	11.75日	○	S 【No.73】